

# 写真散歩

For academic / curatorial review only

路

Zhou Qinyuan © 2024 - 2025

傍

の

な

ま

ざ

し

周 沁园  
しん えん



周 沁園

しん えん

中国上海人

2022

上海工程技術大学 経営学部 卒業。  
同年に来日。

PREFACE

道草を食う

5

2023/04 - 2025/04

青山学院大学大学院 理工学研究科

PROJECT 1

In The Room

19

画像処理研究室に所属し、鷺見和彦教授の指導のもと、動的環境下における 3D SLAM システムを研究。

EXPERIMENT

Mono Print

27

2023/03/12

Canon A-1 を購入し、  
日本で写真活動を開始。

PROJECT 2

雨の日の散歩

51

W.I.P.

写真散歩トーク会

59

PROJECT 3

みんなが道草になる

67

# 道草を食う

4

PREFACE

日本語には「道草を食う」という表現がある。町田に来てから 854 日目のこと、自分はこの地に長く住んでいながらも、町田の文化について何も知らないことに気づいた。そこで、自宅から 854 歩以内の範囲で食べられる草を探し、カメラで記録することを始めた。草が食べられるか否かは、撮影した写真を ChatGPT に入力して判定させた。

草の知識を学びながら、普段は行かない場所に足を運び、多様な風景に出会うことができた。そして毎日の散歩の経路や草の位置を日記に記録した。やがて、ただ「食べられる草」を撮影する行為は、「道草を食う」という表現の本意に背くものであると感じるようになり、町田に存在するにもかかわらず自分が忘れていた風景を撮影し始めた。この物語を近隣の友人や町田の住民に共有すると、誰にとっても「忘れられた馴染みの風景」が存在しており、それが再び探求を待っているのではないかと考えるようになったのである。

5

町田歴：854日

晴



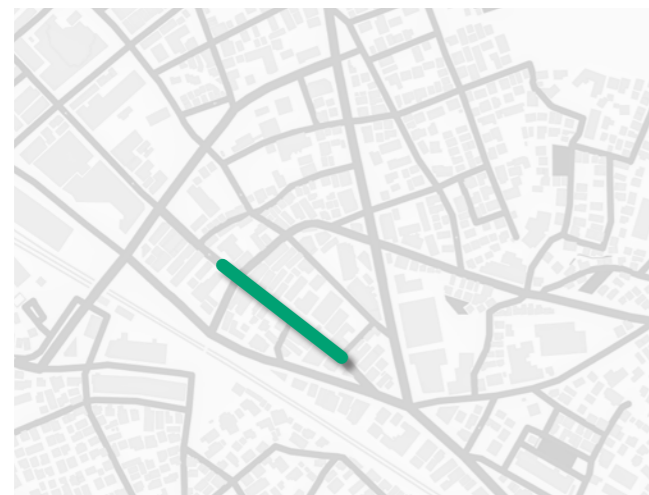
町田に引っ越してから854日目。

毎日ただ急いで道を行くだけで、自分の家のまわりについてほとんど知らないことに気づいた。ふと耳にした日本語の「道草を食う」という言葉に惹かれ、私はさらに「道草を食べる」ことを決めた。家の周囲で食べられる草を探し、その姿を撮影していく。

6



7



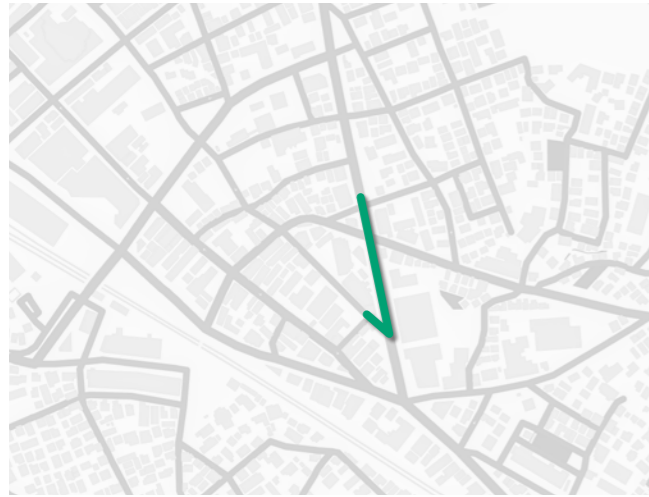
道草を食う



PREFACE

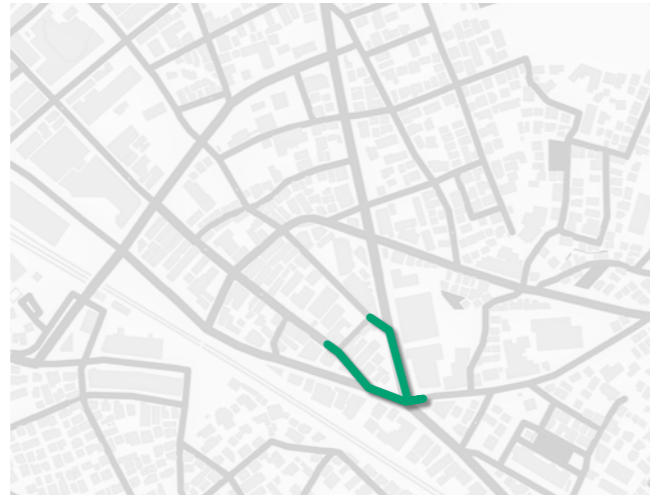
町田歴: 855 日

晴



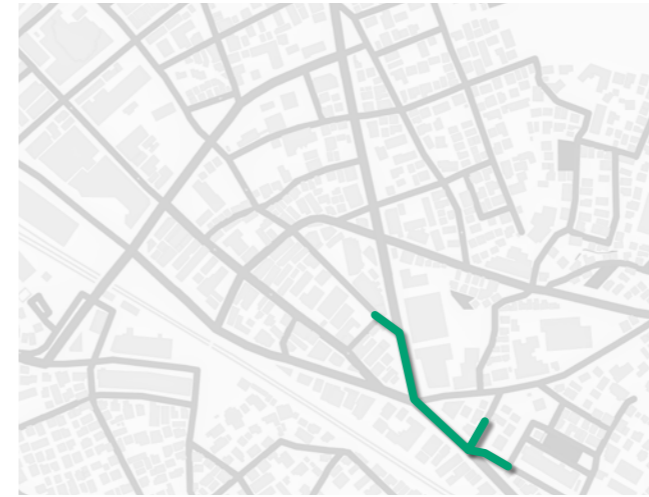
857 日

晴



860 日

晴



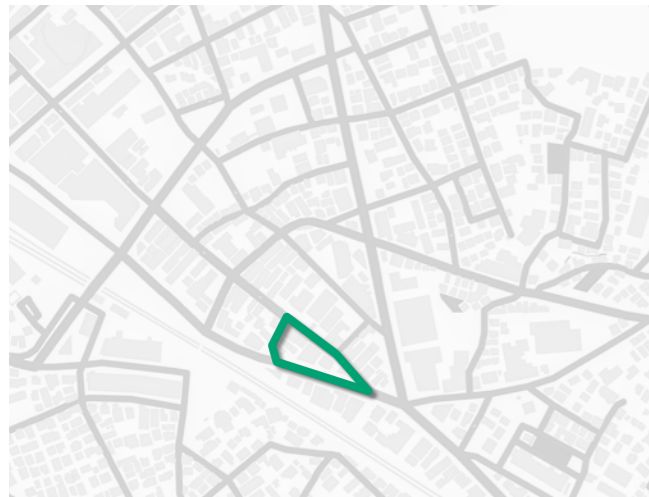
862 日

阴



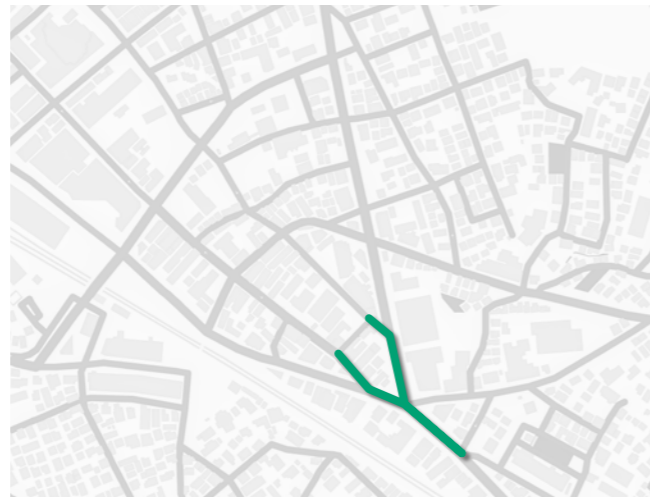
856 日

雨



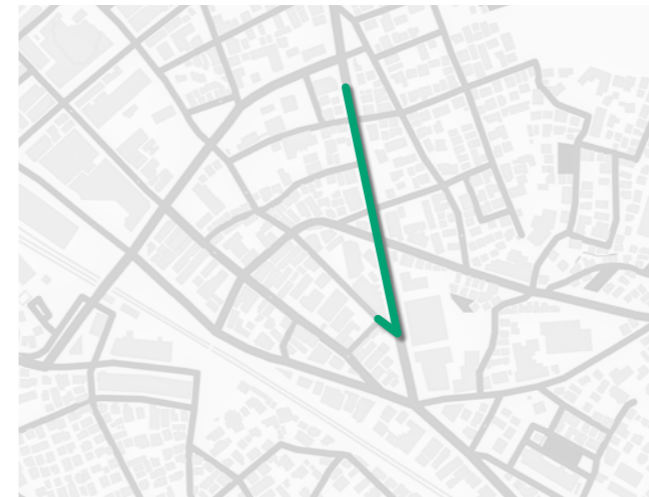
858 日

晴



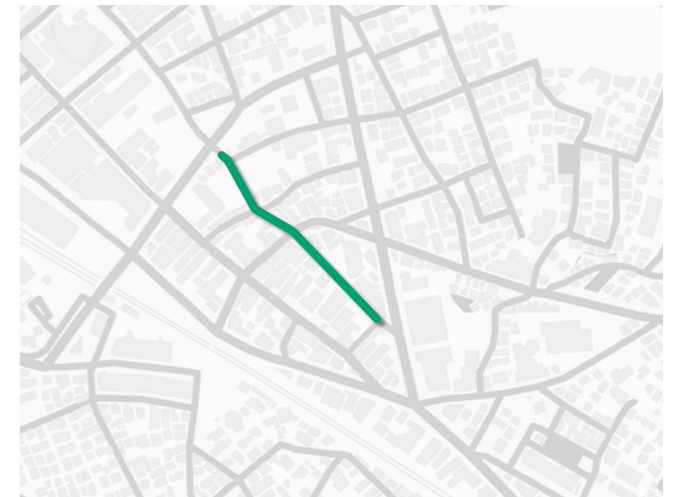
861 日

晴



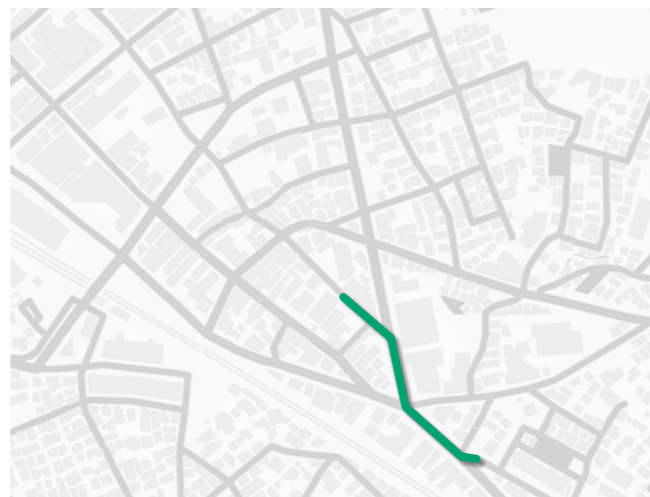
863 日

晴



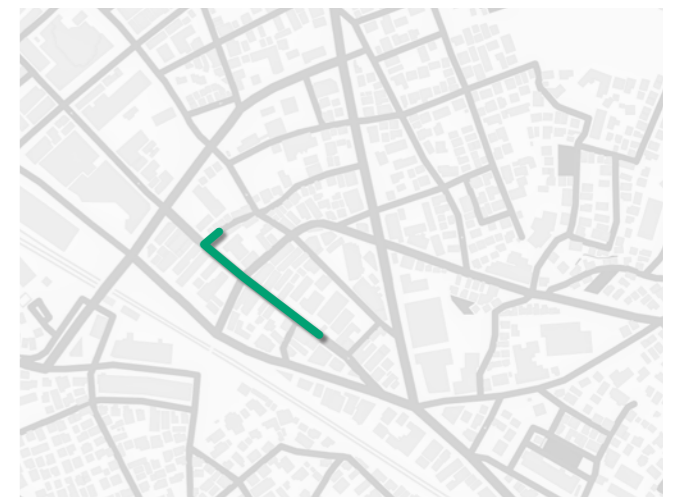
859 日

晴



864 日

大雨



町田歴：865日

小雨

目立たない植物ほど食べられることが多いですが、今日はとてもきれいな花を見かけ、調べてみたらラッパユリで、全体に毒があることがわかりました。

コケも食べられる植物です。こういったものは、きっと飢えに苦しんだときにしか口にしようと思わないでしょう。

以前、中国の三年自然災害の時期（1959年～1961年の大飢饉では、中国本土で1500万人から5500万人の異常死亡が発生し、人類史上最も深刻な人為的災害の一つとされています）には、こうした食べられる植物はすべて食べ尽くされてしまったのでしょうか。



町田歴：866日

陰

今日、植物を探している中で、いくつかの植物の食用性がまだ十分に研究されていないことに気づきました。

それで、食べ物の成分や、食べた後にどのような症状が出るのかについて、科学的な推測がない場合は、やはり自分の体で試すしかなかったのだろうか、と思いました。

そのことから、神農が百草を味わったという故事を思い出しました。

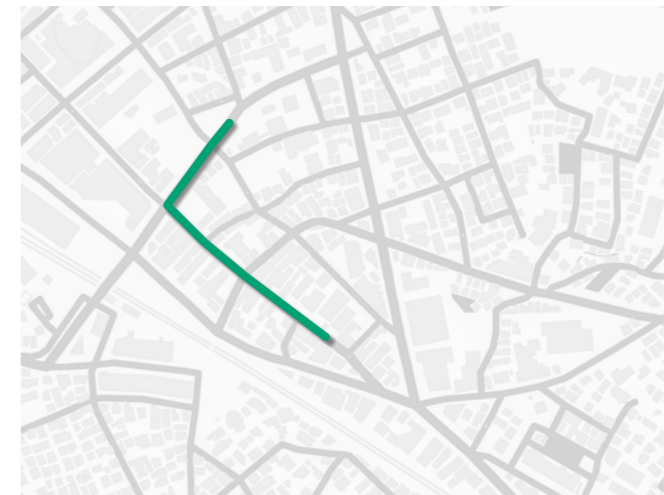


町田歴：867日

晴

今日、植物を探しているときに一匹のカメに出会いました。しばらく目を合わせていると、カメは甲羅の中に引っ込んでしまいました。きっと、私が何をしようとしているのかわからなかったのでしょうか。私はただ近づきたかっただけですが、自分でもその理由はよくわかりません。

私がカメから少し離れると、また首を伸ばして出てきました。



町田歴：868日

晴

夏の日、  
柿の木に  
揺れながら  
落ちかける枯葉、  
桜の樹間に  
しずかに  
こもる蝉の声。

金色の塔をくぐる  
寺の軒をすぎ、  
もずが  
枝を町へと  
運んでゆく。

レモンティーの  
涼やかさの底に  
友情が  
ゆるやかに  
流れている。



12

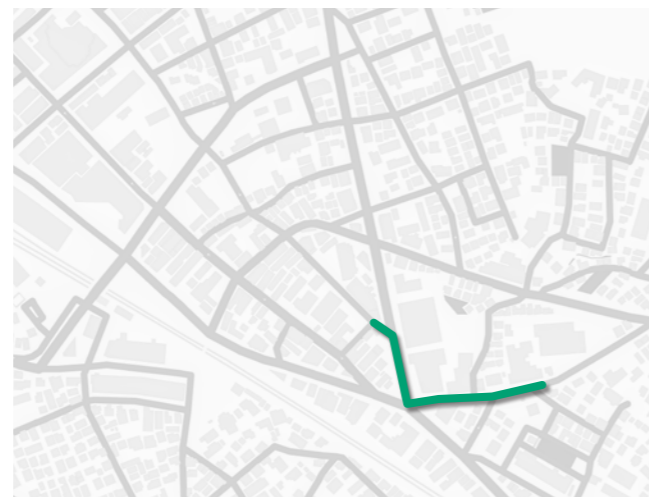
町田歴：869日

陰

陰りの雲のなかを  
八月の熱風が  
ゆるやかに流れている。

黒いレースの裾には  
さかさまの蘭の花が  
ひそかに揺れている。

もし植物に  
記憶が流れているなら、  
町の物語が  
いくつも覗けるだろう。



13

道草を食う

PREFACE





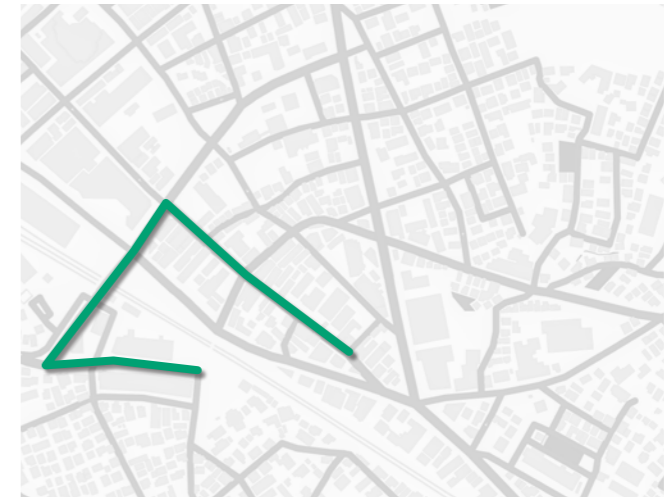
町田歴：870日

陰

草の陰に  
ひそやかに眠る八月、  
青い風は  
口のなかで  
わずかに苦い。

よもぎの葉は  
遠い昔の  
祖母の手の匂いを  
思い出させる。

摘まれたスベリヒユが  
石畳の上で  
小さくひらめき、  
夏の物語は  
そのまま舌の上に  
ひらいてゆく。



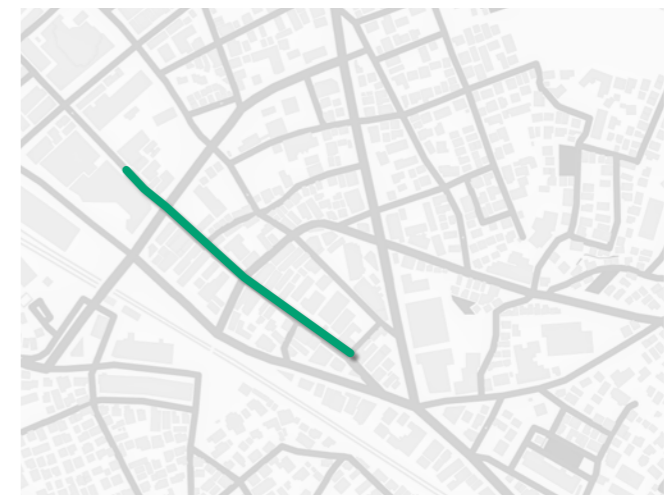
町田歴：871日

晴

夏の夜  
窓辺の香水は  
ひそやかに光り、  
名も知らぬ草の影を  
うすく染める。

白い月の下で  
草は  
眠りながら  
遠い砂漠の夢を  
見ている。

夜風のなかを  
レモンの花の香りが  
しずかに流れ、  
誰かの記憶が  
小さな波となって  
夜を包んでゆく



PROJECT (1) In The Room

PROJECT (2) 雨の日の散歩

PROJECT (3) みんなが道草になる

九月二十八日  
雨の日の散歩のため

(2)

(1)

(3)



# IN THE ROOM

散歩の途中、古い木造住宅の多くが「昭和ガラス」と呼ばれる模様入りのガラスを用いていることに気づいた。昭和ガラスは住民のプライバシーを守りつつも、わずかな色や線を透かし見せる特徴を持つ。現代の住宅に一般的なカーテンとは異なり、その曖昧さが神秘的な美を漂わせている。

一方で、現代のインターネットにおいては、本来私的であるはずの写真がSNS上に氾濫している。そこで私は、自身の身体の写真を「昭和ガラスの家」の中へと再び戻すことを試みることにした。友人たちに依頼して写真を提供してもらい、この「部屋」を構築したのである。どうぞ、この空間を覗き込み、ガラス越しに映し出されるもうひとつの存在を見ていただきたい。

20



\* 写真を「小さな部屋」に入れるのである。

IN THE ROOM - 1



\* 写真は「昭和ガラス」の屈折によってぼやけるのである。

IN THE ROOM - 2



22

桧板、昭和ガラス  
2025

202.5 × 205.5 × 240 mm

IN THE ROOM - 3



23

24



IN THE ROOM



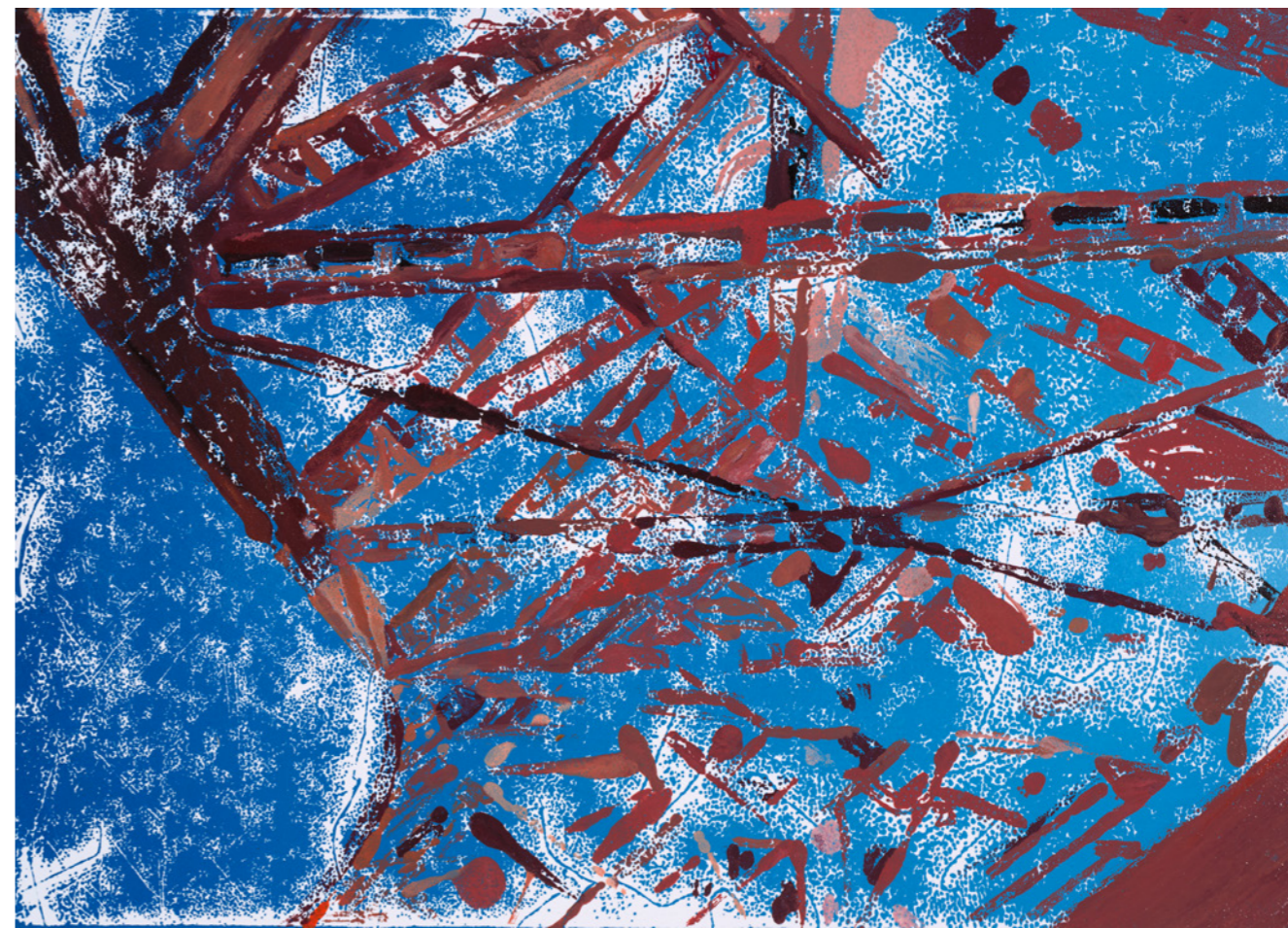
# MONO PRINT

町田市立国際版画美術館は、私が毎月訪れる場所である。そこで版画を制作する人々の姿を観察し、多くの知識を得ることができた。版画は美術史における一部であると同時に、写真史とも深く交差していることを知ったのである。

写真もまた、モノクロ写真からデジタル写真へと移行する過程で、複数の技術が交錯してきた。私は、モノクロ写真を再び版画と交差させ、印刷という媒介がもたらす変容やゆらぎを楽しむ試みを行ったのである。

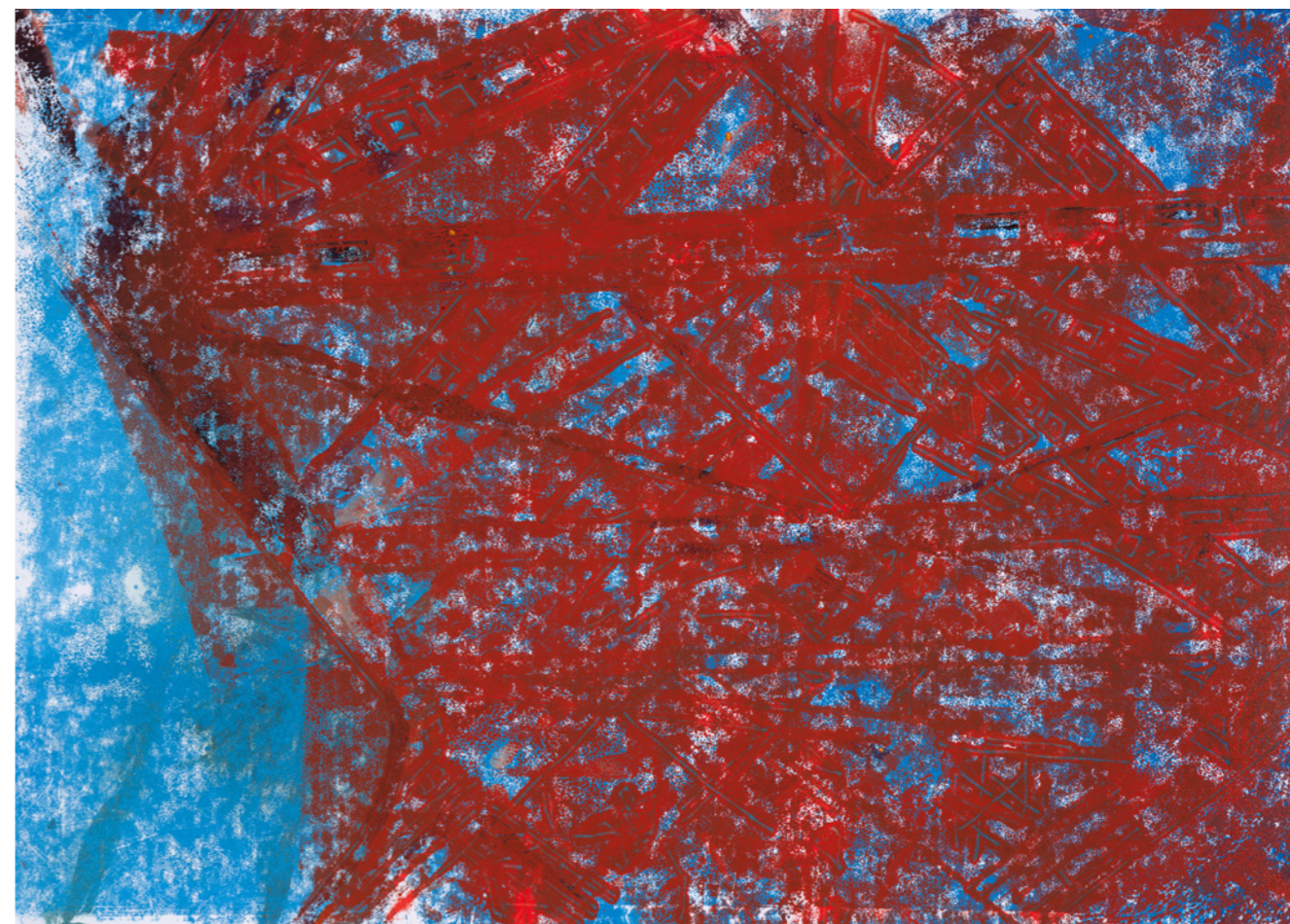
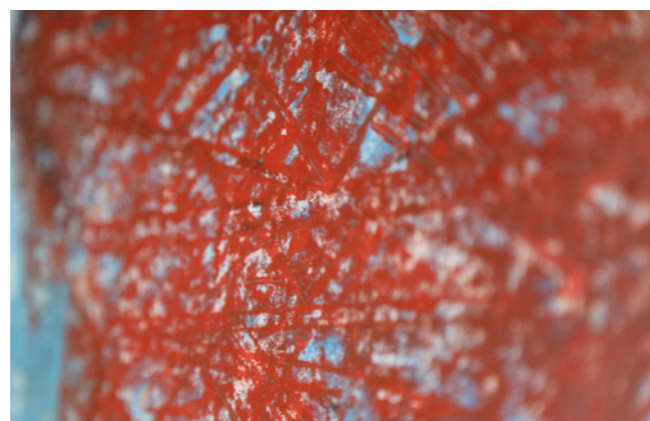


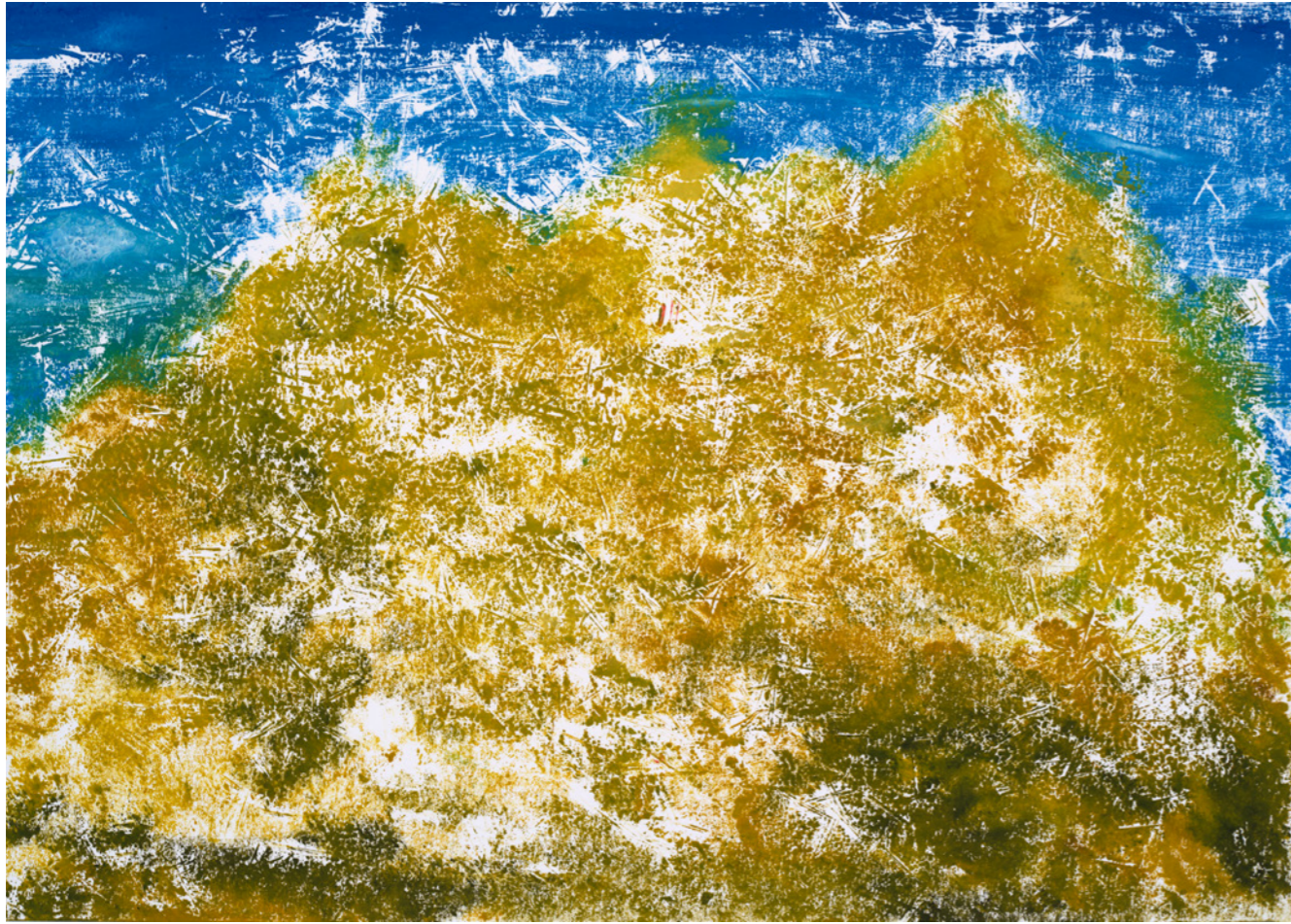
28

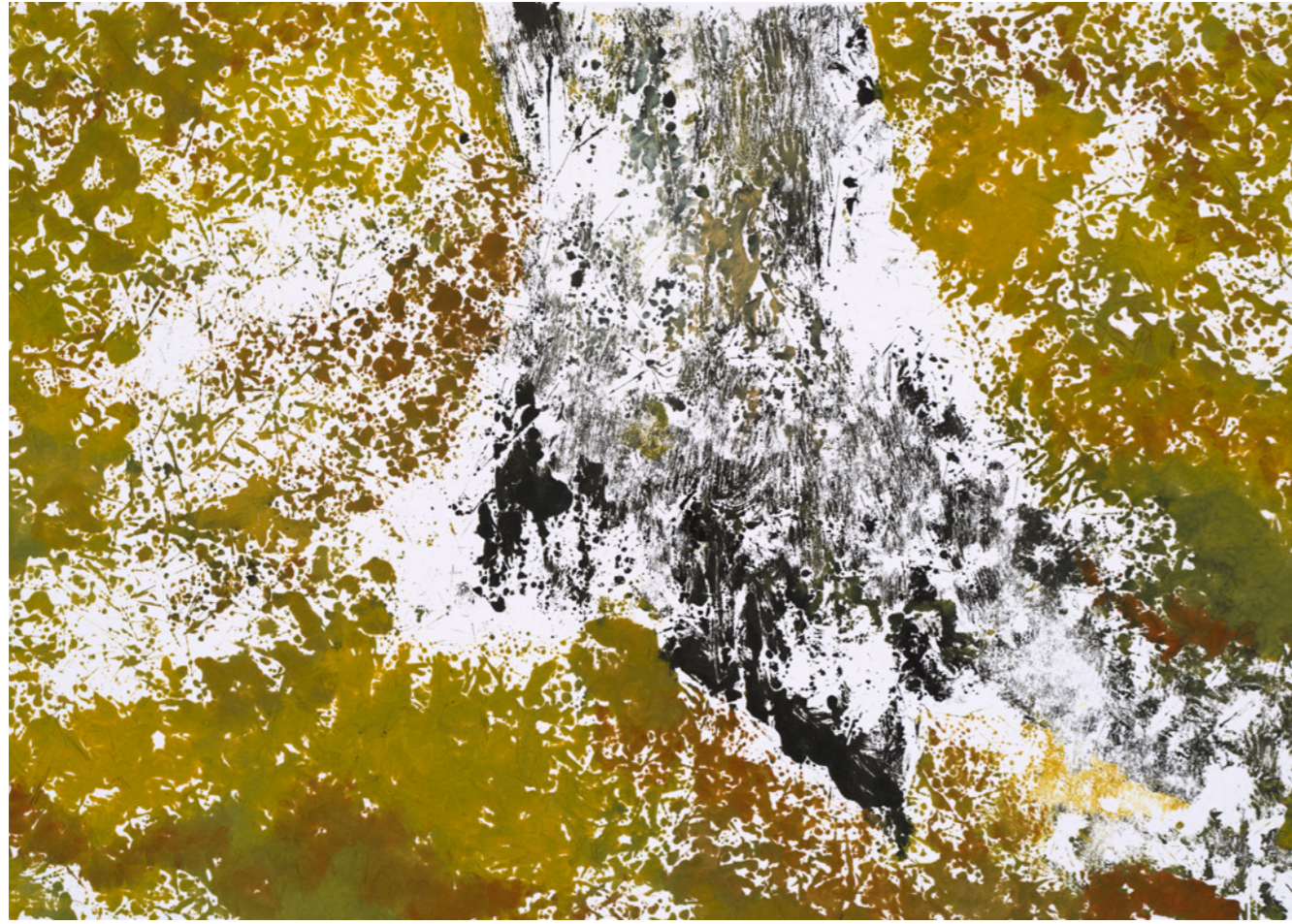


MONO PRINT

\* 作品の細部







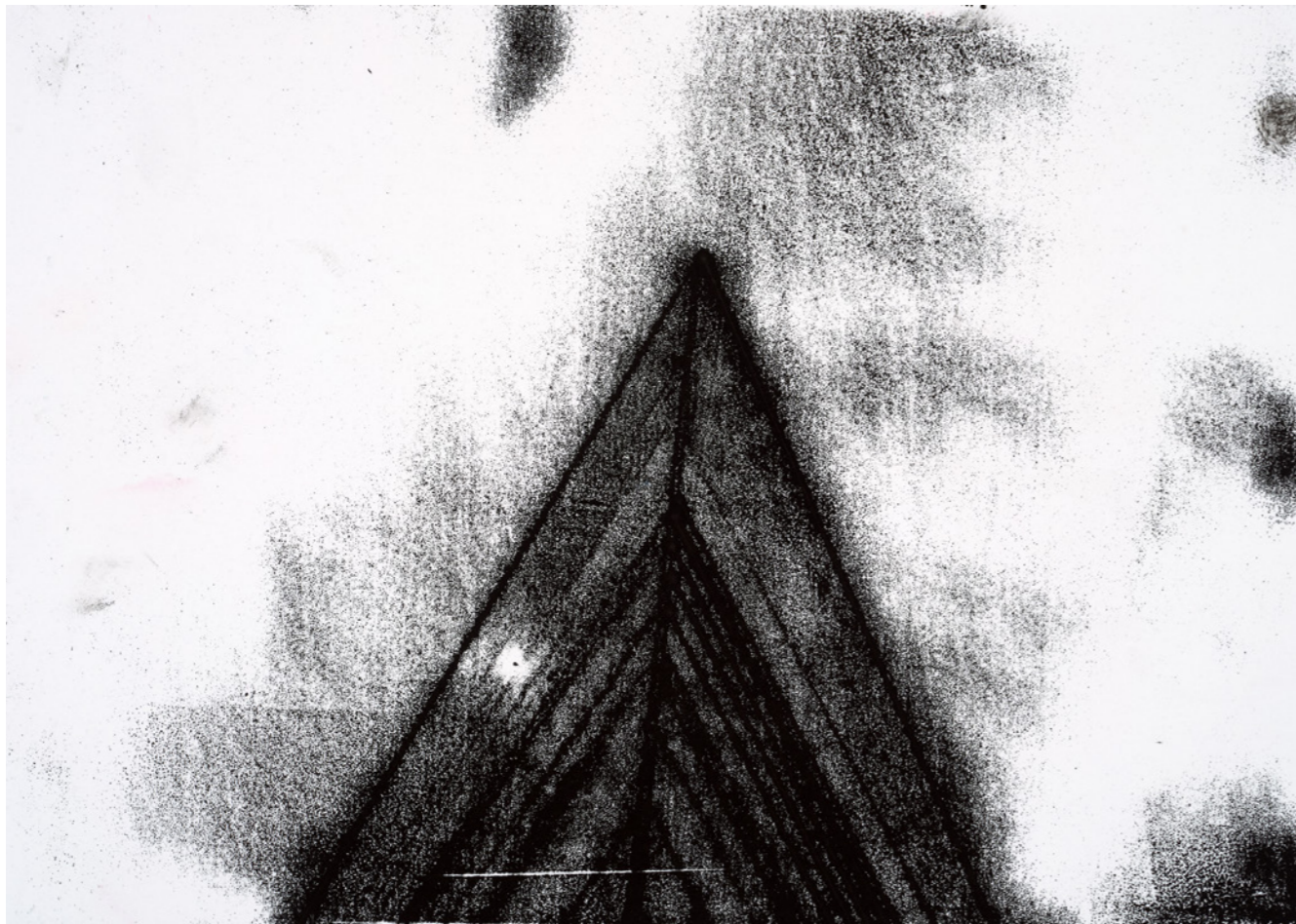
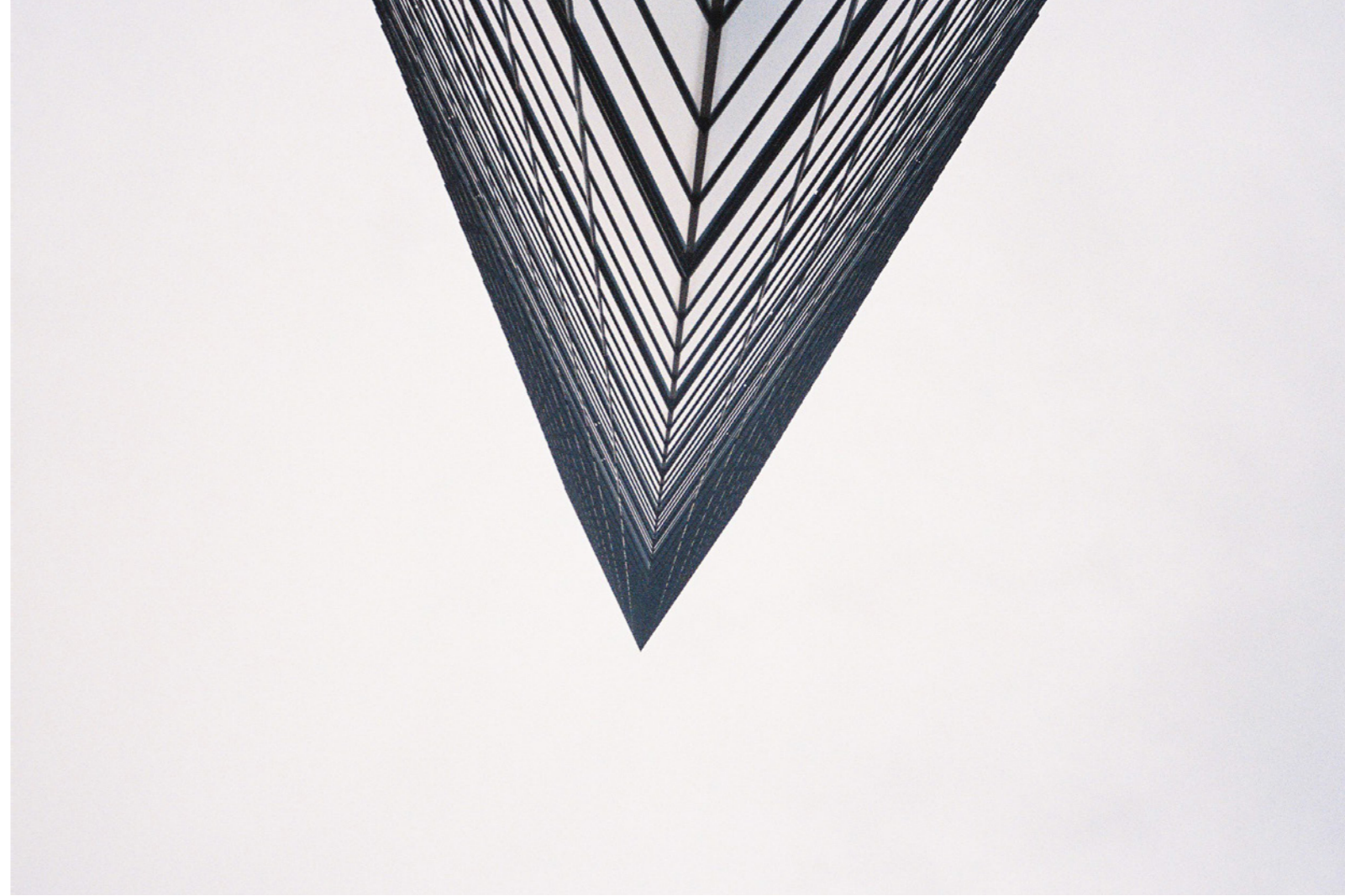
34



MONO PRINT

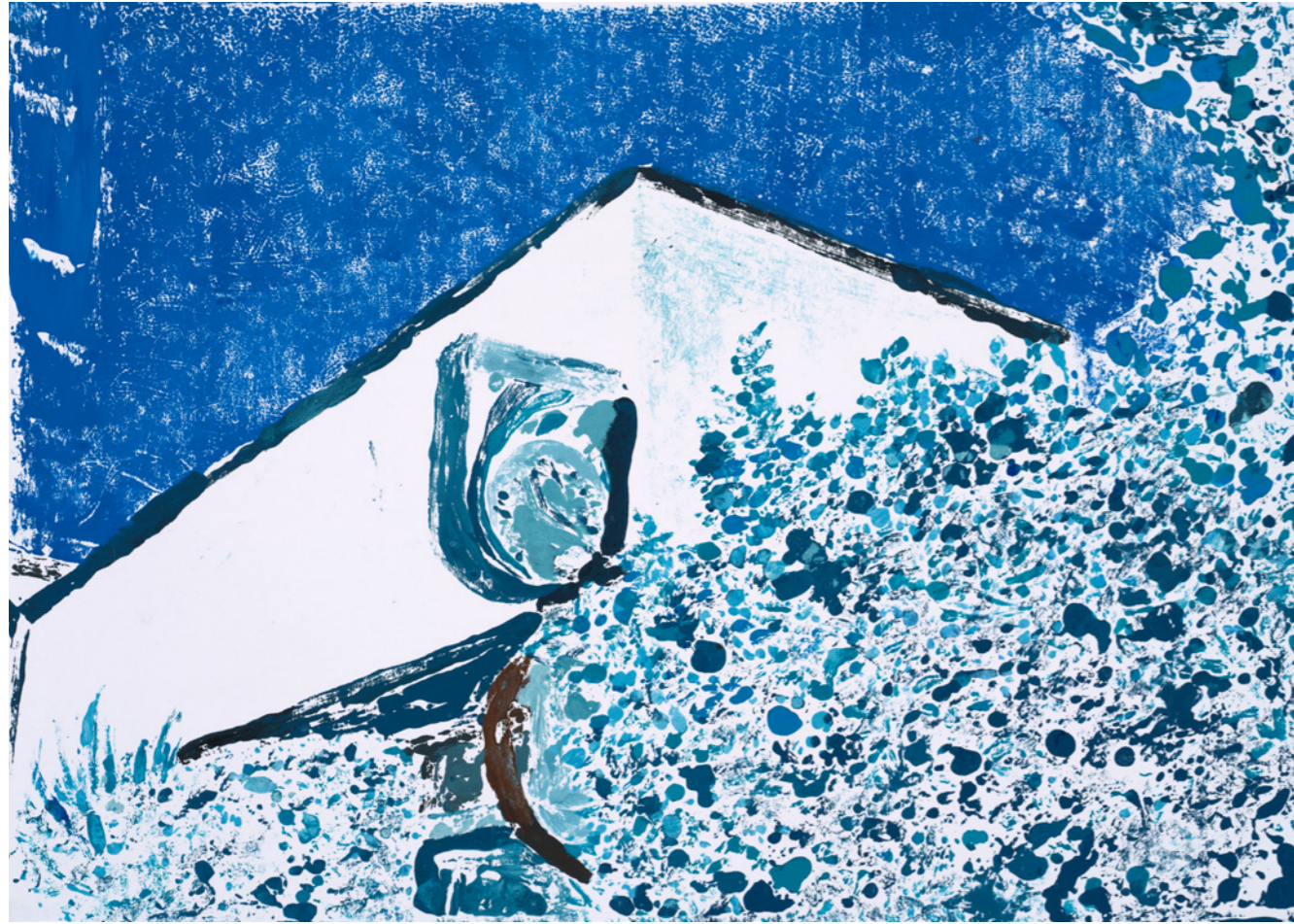


EXPERIMENT



EXPERIMENT



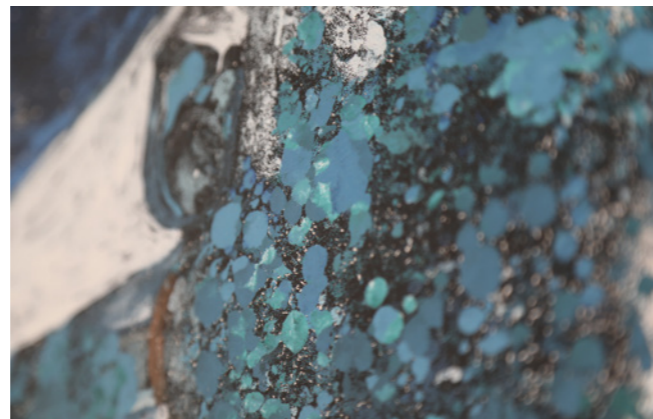


40

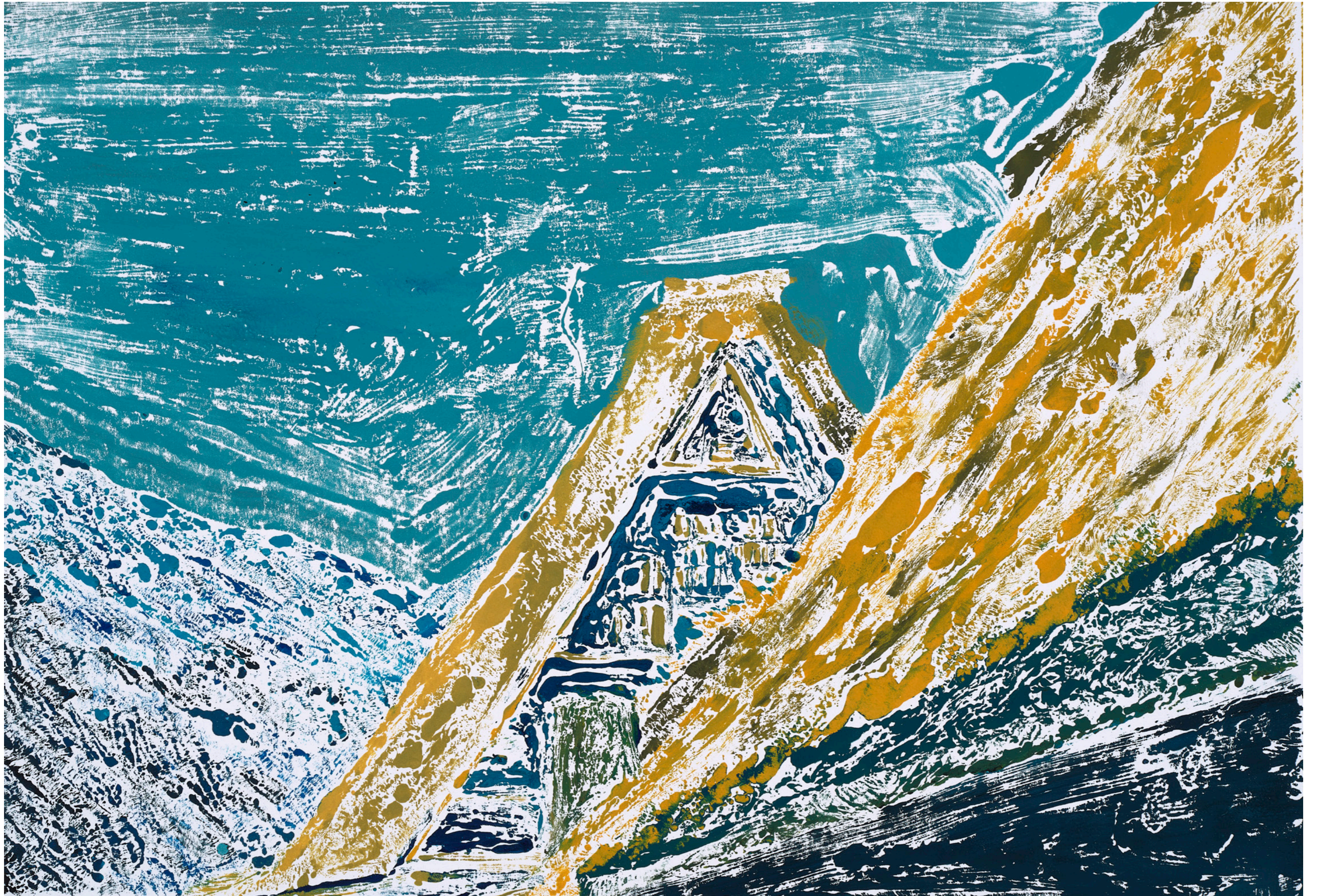


MONO PRINT

\* 作品の細部











MONO PRINT



# 雨の日の散歩

驚くべきことに、大雨の日には植物がいつも生き生きとした姿を見せる。逆に、強い日差しの下では、うなだれるように見えることが多い。これは、日々植物を観察し続けることで初めて気づいた現象である。

雨粒と苔の匂いに満ちた天候のなかで、私はカメラを手に散歩を続けた。そこに記録されたのは、道すがら出会った植物の姿である。これらの映像を通じて、普段見過ごされがちな生命の世界を共有したいと考えている。

雨の日の散歩



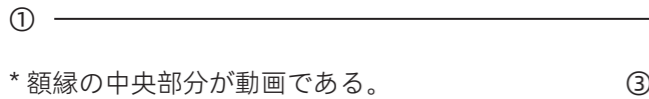
52

たまごパック、昭和ガラス、鉄の粉、ノリ  
2025

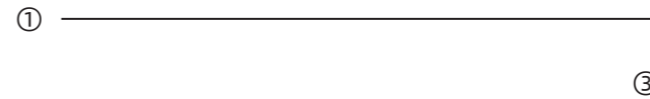
305 × 530 × 100 mm

雨の日の散歩

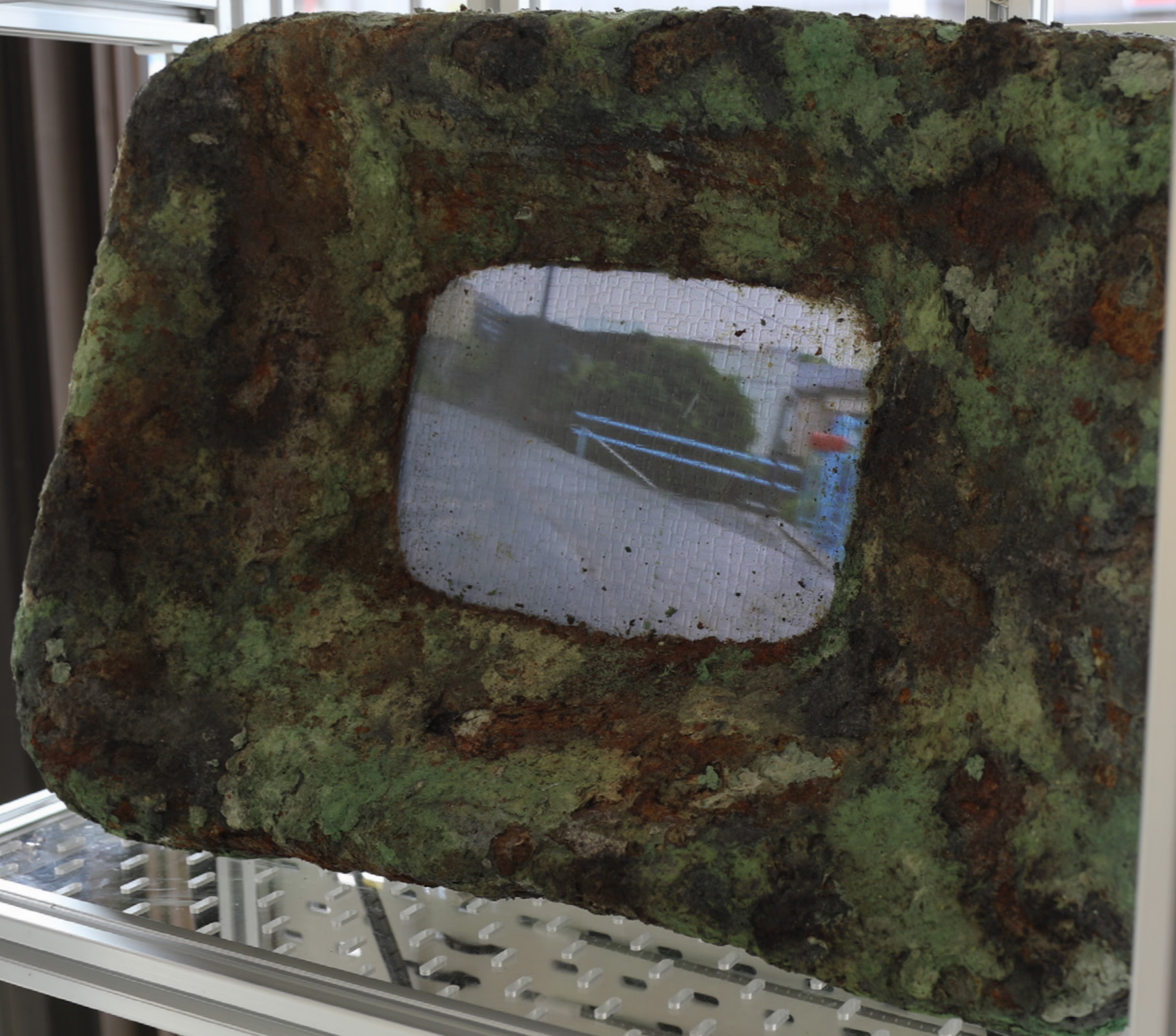




\* 額縁の中央部分が動画である。



56



57

# 写真散歩 トーク会

「写真散歩対談会」では、日常の中で何気なく撮った一枚から見えてくる記憶や景色を共有する。観光名所ではなく、木の影や街角の猫、忘れられた小花といった瞬間に宿る個人的な世界を語り合う。構図や技術よりも好奇心と対話を大切に、誰もが気軽に写真を持ち寄れる場である。



写真散歩トーク会 タイムスケジュール

09月30日 19:00 ~ 21:00

Moon Gallery & Studio

19:00 - 19:20

作品シェア (スナップ写真の展示)

19:20 - 20:00

テーマトーク (写真散歩について)

20:00 - 21:00

自由交流

60





62



63

\* 到場した参加者と自身の写真作品を共有する。

W.I.P.



\* 参加者に食べられる道草を味わってもらう。

# みんなが 道草になる

AIが活発に用いられる現代において、私はAIを写真の媒介として利用し、新たな写真表現に挑戦した。本作品では、観る者ひとりひとりが「食べられる草-道草」として変換される。

路傍の草を撮影することを通じて、私は多くの見過ごされてきた風景を発見した。その経験を基盤に、このインタラクティブな装置を通して、鑑賞者の心と世界を開くことを目指している。この装置は対話機能を持ち、写真を冷たい平面から解放する。ぜひ写真に向かって「こんにちは」と語りかけていただきたい。



みんなが道草になる



アルミ型材、モバイルバッテリー、スピーカー、  
テレビ、ペグボード、人工芝、カメラ  
2025

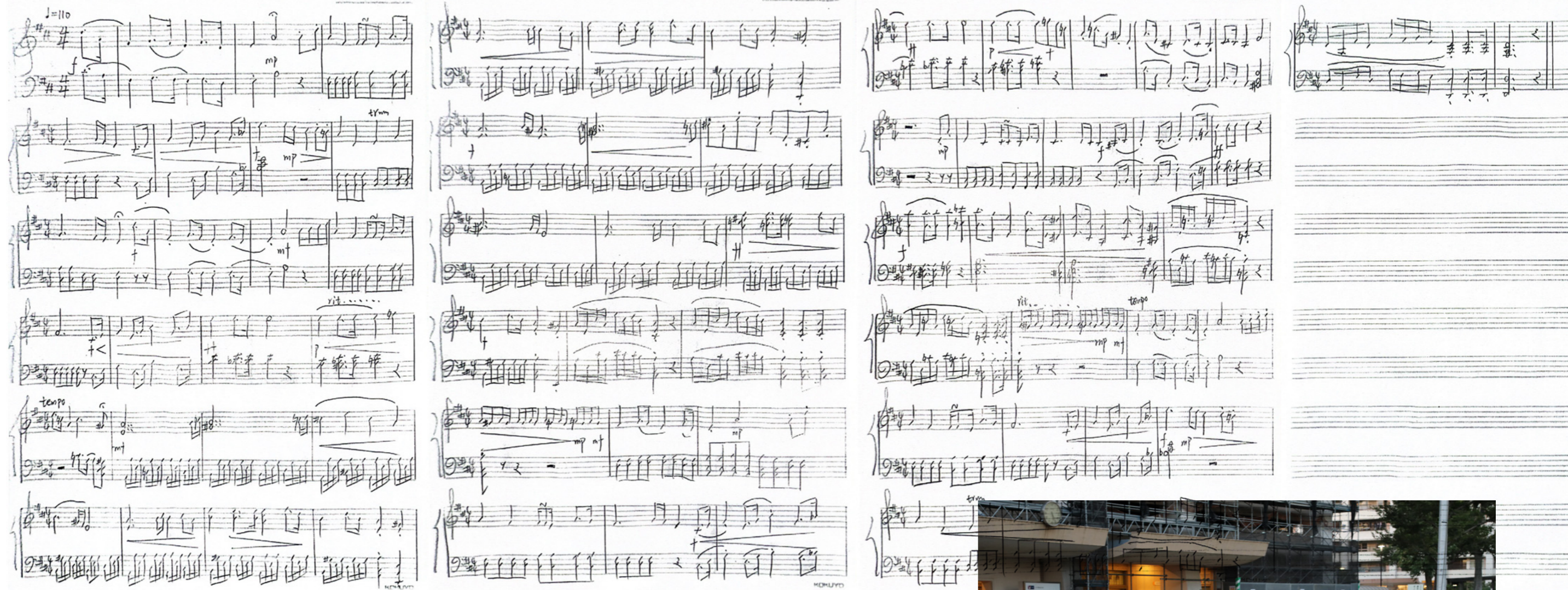
1650 × 600 × 440 mm

68

みんなが道草になる



PROJECT 3



70



これは草を食べている最中にふと頭に浮かんだ曲です。



みんなが道草になる



この曲を口ずさめながら、この装置を押して歩いていると、誰もが無視できない「道端の草」に変身した。



72



73

みんなが道草になる

\* 大人も子供も、積極的にインスタレーションとインタラクションしている。





74



75

